

令和 7年度

事務事業評価表 ( 令和 6年度 の実績評価)

記入年月日  
令和 7 年 4 月 18 日

事務事業名		学校図書館活性化事業					事業区分		担当	
		政策体系上の位置付け					新規/継続	継続	事務事業No.	020101000983
総合計画の施策名		0201 学校教育の充実					単独/補助	単独	所属課	090801 教育指導課
政策体系	政策名	02	生きがいを育む学びのまちづくり					課長名		
	施策名	01	学校教育の充実					グループ	教育指導グループ	
	手段名	01	①教育内容の充実					担当者名		
財務会計上の位置付け						事業期間				
予算科目	会計	款	項	目	事業細	一般会計				
	01	10	01	03	01 00	教育指導事業				
法令根拠	桜川市会計年度任用職員の任用に関する規則					単年度繰返し (平成27年度~)				
						↳ 期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入				

【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その1)

(1) 事務事業の概要

手段	①事務事業の概要 (事務事業の全体像)		②担当者が行う業務の内容・やり方・手順	
	児童生徒並びに教職員が学校図書館を活用しやすくするために、学校図書館協力を3名配置し、担当の学校(1人あたり4~5校)における学校図書館の蔵書管理や環境整備を行う。		学校図書館協力員の配置及び管理、消耗品の配付をする。また、学校図書館協力員研修会を実施して、学校図書館の充実を図る。	

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
			(実績)	(実績)	(計画)	(目標)	(目標)
児童生徒並びに教職員が学校図書館を活用しやすくするために、学校図書館協力を全小中義務教育学校を対象とし、4~5校に1名ずつ配置し、学校図書館蔵書管理や学校図書館環境の整備を行う。	学校図書館協力員の配置人数	人	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00
	学校図書館協力員研修会の実施回数	回	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
市内小中義務教育学校の児童生徒。	児童数	人	1,599.00	1,494.00	1,393.00	1,330.00	1,330.00
	生徒数	人	894.00	871.00	835.00	837.00	837.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
学校図書館を積極的に活用するようになるとともに、読書を好むようになる。学校図書館の活用率や児童生徒の読書量が増加する。	みんなにすすめたい一冊の本教育長賞受賞率(小)	%	90.00	90.30	91.00	92.00	93.00
	みんなにすすめたい一冊の本教育長賞受賞率(中)	%	57.30	27.80	40.00	50.00	55.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量(事業費)の推移

投入量	事業費	内訳	05年度 (実績)	06年度 (実績)	07年度 (計画)	08年度 (目標)	09年度 (目標)	期間限定 総投入量
県支出金	千円	0	0	0				
地方債	千円	0	0	0				
使用料・手数料	千円	0	0	0				
その他	千円	0	0	0				
一般財源	千円	4,711	6,219	6,839				
事業費計(A)	千円	4,711	6,219	6,839				
正規職員従事人数	人	1.00人	1.00人	1.00人				

事業費の内訳	06年度事業費 実績 (千円)			07年度事業費 予算 (千円)		
	01 報酬	4,444		01 報酬	4,875	
	03 職員手当等	1,623		03 職員手当等	1,812	
	08 旅費	152		08 旅費	152	
	合計		6,219	合計		6,839

(4) 当該年度の実施内容

※年度ごとに事業内容を記入する	07年度の事業内容	08年度の事業内容	09年度の事業内容
	児童生徒並びに教職員が学校図書館を活用しやすくするために、学校図書館協力を3名配置し、担当の学校(1人あたり4~5校)における学校図書館の蔵書管理や環境整備を行う。	児童生徒並びに教職員が学校図書館を活用しやすくするために、学校図書館協力を3名配置し、担当の学校(1人あたり4~5校)における学校図書館の蔵書管理や環境整備を行う。	児童生徒並びに教職員が学校図書館を活用しやすくするために、学校図書館協力を3名配置し、担当の学校(1人あたり4~5校)における学校図書館の蔵書管理や環境整備を行う。

事務事業名	学校図書館活性化事業	事務事業No.	20101000983	所属課	教育指導課
(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？					
平成22年度緊急雇用創出事業「学校図書館蔵書整理事業」として事業を開始する。国庫支出金により全小中学校に学校図書館協力員が配置されたことにより、学校図書館蔵書がデータベース化され、バーコードによる貸出が可能になった。学校図書館環境が改善され、児童生徒及び教職員の学校図書館活用率が増加したり、児童生徒の読書量が増加したりした。平成23年度からは「学校図書館活性化事業」として、名称を変更して実施、平成25年度で一端終了したが平成27年度から再開した事業である。					
(6) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？					
学校図書館協力員の配置により、学校図書館の環境が整備され、活用しやすくなった。今後も継続してほしいという要望が全小中義務教育学校から寄せられている。					

【See】 2. 評価の部 \*原則は事前評価。

評価項目	
改革改善を行う	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 学校図書館の整備が進み、児童生徒及び教職員が積極的に学校図書館を活用するようになり、学校教育の充実に結びついた。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？) (法定受託事業はその名称)
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 新学習指導要領改訂の趣旨にもあるように、児童生徒の学力向上、豊かな心の育成のためには本事業を推進することが必要不可欠である。
	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある 令和6年度は3名で市内13校を回っていたが、令和7年度からは3名で市内10校を回まるため図書館の整備が進み、利用率等の向上が期待できる。
効率性	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有 学校図書館の整備が滞り、利用に関しても向上が望めない。
公平性	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか？(市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ⇨ 具体的な手段、事務事業名
	<input checked="" type="checkbox"/> 余地がない 他に類似事業名はない。
公平性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 現在、会計年度任用職員3名を市内13校に巡回させながら実施をしている。現状でも各校を週に1回前後しか訪問できないため、これ以上の削減は難しい。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 市内全小中学校に学校図書館協力員を4~5校で1名の配置としたため、どの学校においても年間を通してほぼ同じ日数を配置することができた。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																						
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	⇨	計画どおりに事業を進めることができ、全小中義務教育学校において学校図書館の整備が進んだ。学校図書館に新たに整備された図書システムを活用し、本の貸出し、蔵書の管理がスムーズにできるようになった。																						
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																						
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止		(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																						
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下			×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持			×																				
	低下			×																				
現在3名で市内13校を回っていたが、令和7年度は統合により学校数が10校に減るため図書館の整備が滞り、利用率等の向上が期待できる。さらに、学校図書館協力員への研修等を充実させたり、学校図書館協力員同士の情報共有を密にしたことで、学校図書館整備の充実化を図っていく。		(6) 事務事業優先度評価結果																						
		成果優先度評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> ②																						

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> B A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> A B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>